

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.37 Summer 2017

4月中旬頃になると海上の森にやってきます。森の中で、明るく美しい歌声が聞こえてきます。



キビタキ

トピックス

・特集 海上の森はいま

「里山暮らし講座」を開催しました！

・海上の森散歩

物見山まで歩こう！

祝 海上の森の会「プロジェクト未来遺産 2016」登録記念 展示中です！

NPO 法人 海上の森の会「愛知万博の理念と継承～海上の森・保全活用プロジェクト」が、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産 2016」に登録されたことを記念して、展示を行っています。

活動風景の写真、会報のバックナンバーや木で作ったストラップなどを展示しており、海上の森の会のこれまでの成果や活動について知ることができます。是非ご覧ください！



特集 海上の森はいま

「里山暮らし講座」を開催しました！

本年度の「あいち海上の森大学」第3弾、里山文化コース「里山暮らし講座」のご報告です。1月から2月にかけて、「火」をテーマにした5日間のワークショップを行いました。

初日は里山に関する講義を受けた後、火おこしに挑戦。火打金と火打石を打ち合わせ、生じた火花を蒲の穂やもぐさ（ヨモギの葉の裏の繊毛）などの火口にうつし、火をおこしました。

2日目は鍛冶体験で、五寸釘を炭で熱して叩き、ペーパーナイフを作りました。柄の部分にねじりを加え、小さいながらも本格的な出来上がりです。その後は、瀬戸の里山でやきものが発展してきた背景について学び、やきものの作品づくりを行いました。

3日目は煙に燻されながらの竹炭づくり。底に穴をあけた缶に竹をぎっしり詰め、下から火をおこし、煙突から出てくる煙の色で炭化の進み具合を見ていきます。完成した炭はところどころ青光りして、とても綺麗な焼き上がりでした。

4日目は、野外でやきものを焼きました。3週間乾かしておいた作品をあぶって十分に乾かした後、どんどん炭をおこして一気に焼き上げます。熱いうちに蜜蝋を塗って耐水性を上げ、実用的な器に仕上げました。



5日目は薪と炭を使った野外料理です。割っておいた薪の乾燥が足りなかったのか、火おこしに苦戦。それでも、お昼過ぎにはほかほかと湯気を上げるおこわや野菜汁を、自分で作った器に盛り付けていただきました。

このような講座を通じて、多くの方に自然を身近に感じる暮らしの楽しさや喜びを知ってもらい、里山の保全に目を向けていただけたらと思います。

センター職員随想リレー かたりべのひと言

海上の森の多様性

海上の森は、都市部から20～30分という近さにもかかわらず、多様な生物たちが数多くいます。中でも私の印象深かった出会いは、初夏に巣箱から顔を出してこちらを凝視するムササビ、夏の暗めの森で誘うように「ホイホイ」鳴くサンコウチョウ（鳥）、秋では、その白さにウツトリしてしまうヤマブシタケ（キノコ）、冬のただ中であって春の体操をしているようなオオカメノキの冬芽などです。森は毎日同じようで違っていて、どこかに必ず見入りたくなる光景があります。森へ入ることで心身の健康をもたらしてくれるばかりでなく、里の暮らしや農業体験などの特別な経験もできる「海上の森」へ是非お越し下さい。いつでもお待ちしております。(K.H)

海上の森で山歩き 物見山に登ろう！！

物見山の標高は327m、あいち海上の森センター付近の標高は120m程ですから、210m程の標高差が楽しめます。4月以降の海上の森ではシデコブシ、コバノミツバツツジ、フジ、ヤマザクラ、オオカメノキ、ホオノキ、ガマズミ類の花が咲き、まさに「山笑う」景色となります。物見山は春から初夏にかけては、展望はよいものの霞がかかります。しかし、この頃は所々に見えるシイの木が黄金色となり、その眺めは美しいです。真下には民家が見え、野焼きだろうか、煙が立ち上ると、心和む風景となります。

さて、おすすめのコースを紹介します。まずは、リニモの八草駅を下車、鳥のさえずりを聞きながら「あいち海上の森センター」まで約2kmを歩きます。センターで地図を入手。道標番号を確かめながら、吉田川沿いの道を行くと、道標**36**が見えます。これを過ぎると道標**35**に至ります。道標**35**の脇の歩道を登り、**34**を経て**33**から**20**へ向かいます。**21**からは少し急峻な尾根道となります。**24**が目標の物見山となります。センターから物見山まで約2.6km。帰りは、海上砂防池へ寄って、サテライトへ向かいます。サテライトから四つ沢（道標**2**）を経て、森の入り口駐車場まで約2.5km。森の入り口駐車場から愛知環状鉄道の山口駅までは約2km。全行程約9.1kmです。弁当、飲み物は忘れないように。歩きやすい服装と靴でお越してください。SKI65



海上の森ミニセミナー第8回

「ギフチョウってどこまで飛べるの？」を開催しました！

3月25日（土）、海上の森ミニセミナー第8回「ギフチョウってどこまで飛べるの？」を開催し、たくさんの方々にご参加いただきました。

第一部は「海上の森自然環境保全地域におけるギフチョウの保全活動について」をテーマに、愛知県環境部自然環境課の神尾慶一氏にお話をいただきました。海上の森自然環境保全地域で激減したギフチョウを呼び戻すための森林整備の取組みについて紹介いただきました。



第二部は「ギフチョウってどこまで飛べるの？」をテーマに、日本鱗翅学会自然保護委員会東海支部長の高橋匡司氏にお話をいただきました。ギフチョウの生態や、生育環境による翅の模様の違い、食草のカンアオイの種類による生存率の差などについて紹介いただきました。



とても興味深い内容で、実際に翅の模様が異なる個体の写真がスクリーンに表示されると、参加者の方々からは、驚きの声があがりました。質疑応答では、個体数の減少や保全方法について様々な意見が出されました。これを機に、海上の森をはじめ様々な場所でのギフチョウの保全活動に多くの方々に関わってくださると幸いです。

海上の森ミニセミナーは、海上の森で調査・研究・環境教育等の活動をしている方々に、活動の成果を発表していただいたり、この地域の歴史・文化・自然環境に見識のある方々に話題提供をしていただきます。

開催日時：基本的に、毎月第4土曜日 13:30～15:00

開催場所：あいち海上の森センター3F 研修室 参加費：無料 原則申し込み不要

※開催日時・場所を変更することがあります。開催ごとの募集チラシを参照してください。

平成29年度 7月開催予定 海上の森プログラム

○調査学習会

「海上の森のキノコ」

実施日時：7月16日（日） 9:30～14:30

「海上の森の水生物」

実施日時：7月30日（日） 9:30～12:30

対象：小学生以上 ※小学生は保護者同伴

お申し込み方法など詳細につきましては、あいち海上の森センターホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>) またはセンターおよび関連施設にて配布される資料をご確認ください。

編集後記

海上の森の里では、もうすぐ田植えが始まります。梅雨が来て、田畑も山も潤い、草木が勢いを増す季節。巣立っていくツバメたちを見送り、夏の訪れを迎えます。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 平成29年5月18日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード